



矢作川避難計画

令和3年6月 ～第1版～

岡崎市

目次

1. 目的	- 1 -
2. 計画の位置づけ	- 2 -
3. 気候変動の状況	- 3 -
4. 早期避難の必要性	- 4 -
5. 計画の発動条件	- 5 -
《具体的な発動条件》	- 5 -
《検討した事項》	- 5 -
6. 対象とする被害想定	- 6 -
《被害想定的前提条件》	- 6 -
《矢作川浸水想定区域図》	- 6 -
《検討した事項》	- 8 -
《矢作川流域の浸水実績》	- 9 -
7. 避難開始時期	- 11 -
《具体的な避難開始時期》	- 11 -
《時間軸で想定される情報や事象》	- 12 -
8. 早期避難情報	- 13 -
《具体的な早期避難情報》	- 13 -

9. 避難対象者	14 -
《避難対象地域》	14 -
《検討した事項》	16 -
10. 避難のタイミング	16 -
《避難対象者の整理》	17 -
《個人の属性による整理》	17 -
11. 浸水深による避難対象者数の整理	17 -
《段階的避難》	18 -
タイムライン	20 -
12. 避難の手段	20 -
《具体的な避難手段》	20 -
《手配可能な移動手段》	21 -
13. 避難先	21 -
《避難先の候補地》	22 -
《開設する指定緊急避難場所》	23 -
《広域避難先の候補となる自治体》	24 -
《車中泊避難所の候補地種別》	25 -

《検討した事項》.....	- 25 -
14.市の体制	- 26 -
《非常配備体制》.....	- 26 -
《指定緊急避難場所等の開設順位》	- 27 -
《車中泊避難場所の活用順位》.....	- 27 -
《防災関係機関との連携》	- 28 -
《検討した事項》	- 28 -
15.計画の見直し	- 29 -
16.その他の河川氾濫等との整理	- 29 -
17.普及、啓発.....	- 30 -
18.検討会	- 31 -
19.アンケート結果	- 34 -

1. 目的

近年、河川氾濫による水害は、毎年のように発生し、その被害も激甚化している。岡崎市では、一級河川や準用河川だけでも、40 を超える河川が流れており、風光明媚な地形である一方、大雨や台風といった、風水害による被害が懸念される地域でもある。

特に、国土交通省が公表した、矢作川の想定最大規模の浸水想定区域図によると、影響を受ける市民は、20 万人にのぼると想定がされており、従前のように、河川水位をトリガーとして避難指示等を発令しては、一斉避難による渋滞や混乱が発生し、逃げ遅れた住民が被災してしまう可能性がある。

そのため本計画では、矢作川における氾濫の危険性が、一定の確率以上となった際に、早期避難における情報を発出することとし、混乱を最小限に留めるとともに、災害時避難行動要支援者や自力での避難が困難な方の移動手段を確保し、逃げ遅れる住民を無くすことを目的とする。

2. 計画の位置づけ

大規模河川氾濫による避難については、災害対策基本法が改正され、令和3年5月から、市長村長が居住者を安全な他の市町村に避難させるに当たって、市町村間の協議を可能にするための規程が措置される予定であることや、流域治水に関連する法律が改正されるなど、まさに過渡期であり、本計画策定後も法整備による計画修正の事項が発生する可能性は高い。

また、早期避難の実施に資する気象情報については、現状では台風予報のみであるが、線状降水帯に関する情報の発出が令和3年度の出水期から開始されるなど、気象予報の精度も向上しているところであり、早期避難情報として取り入れる必要がある。

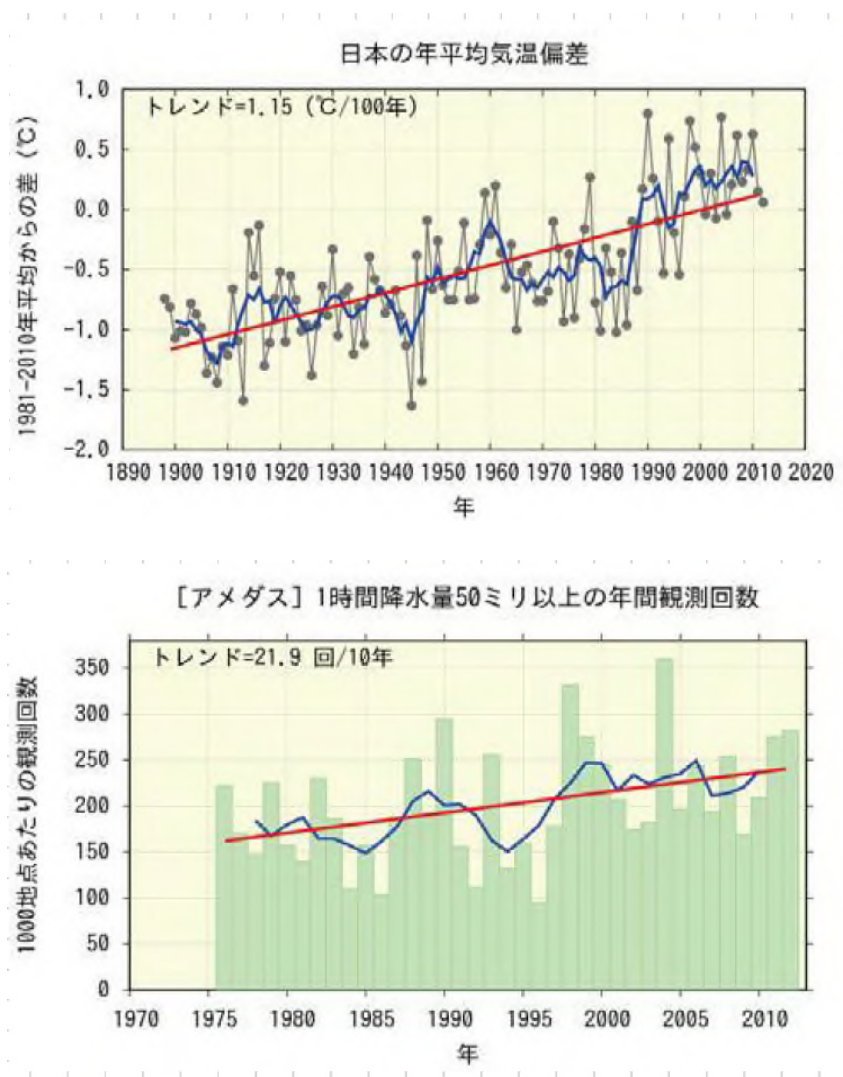
さらに、対象住民が20万人となる避難行動は、岡崎市のみならず、全国的にも例が少なく、避難シミュレートを実施するなど、避難に必要な時間の算出や、多くの住民が避難することで起こりうる事象などを予想する必要がある。

一方で、矢作川の沿川には本市のほか、愛知県内には豊田市、安城市、西尾市、碧南市などがあり、また、洪水による被害が想定されている14市町で構成される矢作川水防災協議会、さらに、西三河9市1町による西三河防災減災連携研究会では市町村間の連携による防災体制が構築されている。そのため、本計画も市町を超えた広域での連携を検討する必要がある。

前記の課題については、当然ながら解消することが必要であるが、近年頻発化・激甚化する災害を鑑みると、本年度にも矢作川が氾濫する規模の大雨等がこの地域を襲う危険性があるため、現時点で実現可能な早期避難に関する事項を令和3年度版として整理するものとし、引き続き課題解決を図りながら修正を進めるものとする。

3. 気候変動の状況

日本の平均気温は、年による変動が大きいものの、長期的に上昇傾向で、100年あたり1.15℃の割合で上昇しており、同時に降水にも変化が表れ、1時間降水量50mm以上の短時間降雨の頻度は増加傾向にある。水害リスクが従来に比べ高まっている傾向にあることは、気象観測実績からも判断でき、水害対策の必要性は高まっていると言える。



(出展：「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書第1作業部会報告書（自然科学的根拠）の公表について H25.9.27 文部科学省、経済産業省、気象庁、環境省」)

4. 早期避難の必要性

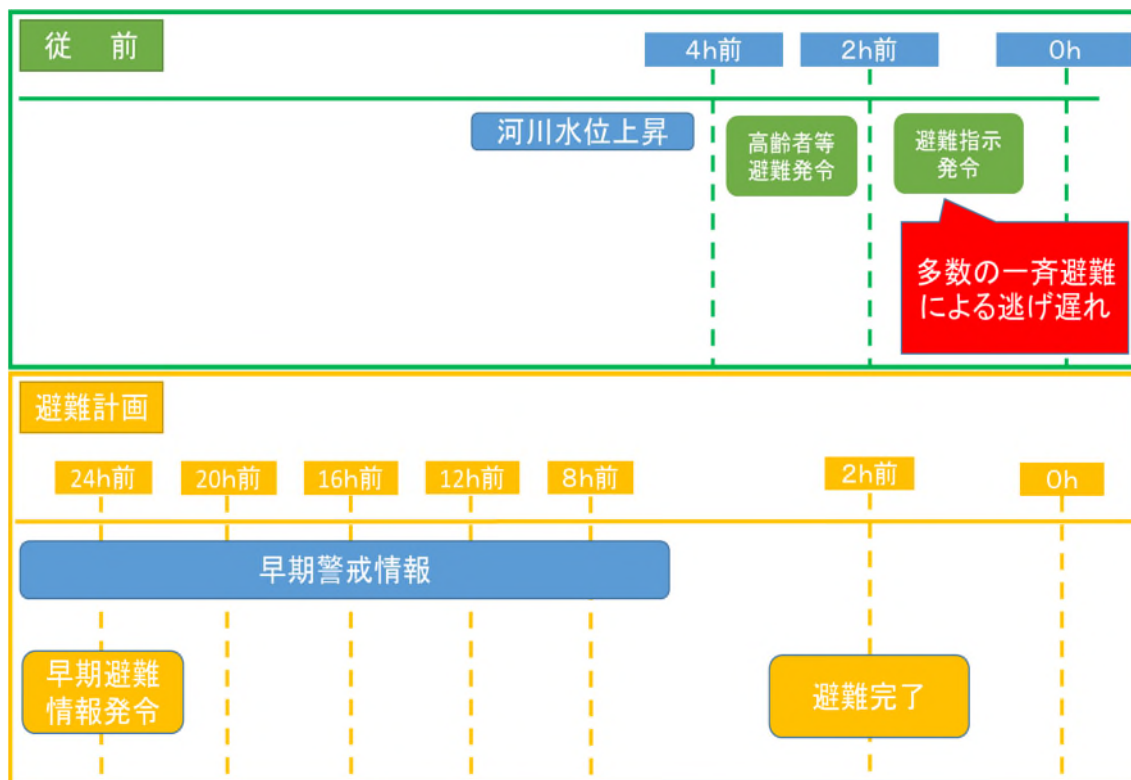
従来の、河川氾濫における避難については、河川管理者が設定している「指定河川洪水予報」に基づき避難行動を開始することとしており、矢作川は以下のような水位が設定されている。

〈矢作川指定河川洪水予報（岩津観測局）〉

水位名称	基準水位	リードタイム	避難に関する情報
氾濫危険水位	8.50	約2時間	避難指示
避難判断水位	7.80	約4時間	高齢者等避難

前記のとおり、矢作川氾濫時に影響を受ける住民は、約20万人に及ぶため、リードタイムが2時間から4時間では、逃げ遅れが発生する可能性が高く、早期避難を実施する必要がある。

〈従前の避難情報と計画中の早期避難を整理した図〉



5. 計画の発動条件

計画の発動は、伊勢湾台風に匹敵するような勢力の強い台風や、今まで経験したことの無い異常な大雨といった、矢作川における氾濫の危険性が、一定確率以上に高まった際に発動することを基本とする。

《具体的な発動条件》

1. 大型（伊勢湾台風級）の台風が接近又は上陸する恐れが高く、矢作川の氾濫に匹敵する降水量が見込まれる場合
2. 前線の影響などにより、大雨特別警報級の降雨が予想され、矢作川流域で48時間雨量が600mmを超えると見込まれる場合
3. その他、矢作川の堤防に重大な破損が発生するなど、河川氾濫の危険性が高まった場合

《検討した事項》

- ・近年の大規模河川氾濫の原因となる事象は、令和元年房総半島台風・東日本台風といった台風によるものと、令和2年7月豪雨や平成30年7月豪雨といった線状降水帯によるものの、大きく2パターンに分けられる。
- ・台風の予測技術は精度が高くなっており、早い段階から注意喚起がされ、数日前には予想雨量が発表されるなど、避難情報に資する確度の高い情報が早期に発出されている一方、線状降水帯については、現状の予報技術では、予測すること自体が難しく、早期避難に資する情報を得ることは期待できない。
- ・本計画は、住民が浸水想定区域外への避難に要する時間が1日程度必要であることから、線状降水帯を事象とする河川氾濫については対象外とするが、気象庁は令和3年度の出水期から「顕著な大雨に関する情報」を発表し、線状降水帯に関する情報を発出することとしており、気象予報技術の向上が図られた際には、速やかに線状降水帯など、河川氾濫に危険を及ぼす情報を本計画の対象とする。

6. 対象とする被害想定

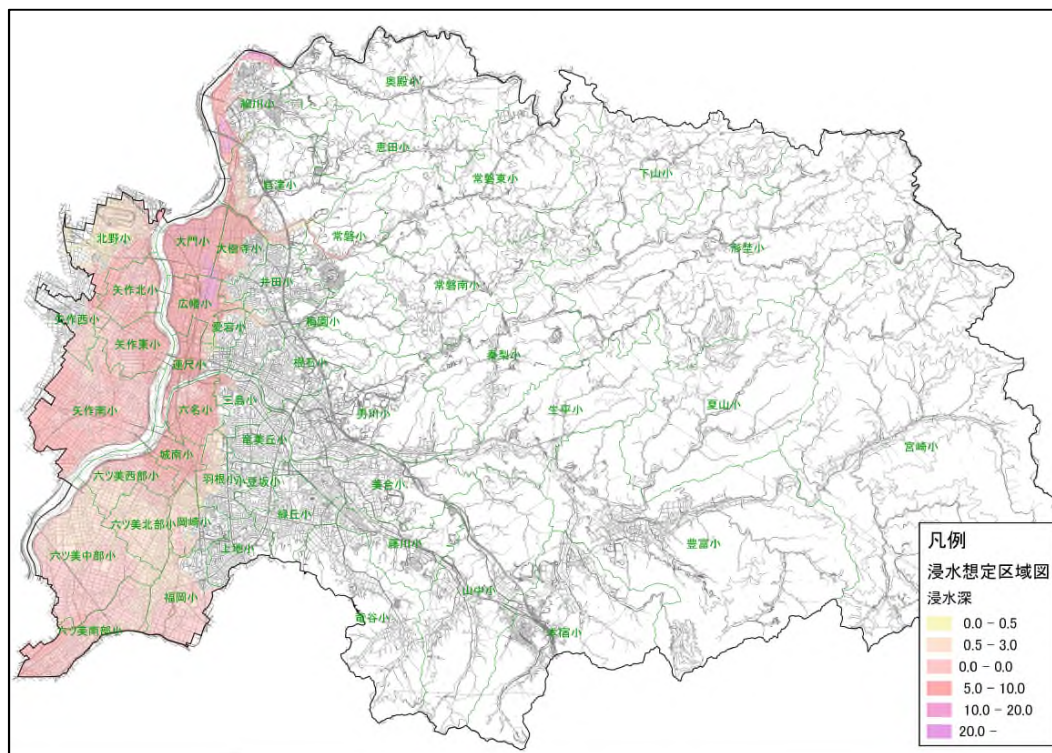
本計画において、対象とする被害想定は、矢作川水系矢作川洪水浸水想定区域図（国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所：令和元年6月公表）のうち、想定最大規模（I2）とする。

《被害想定的前提条件》

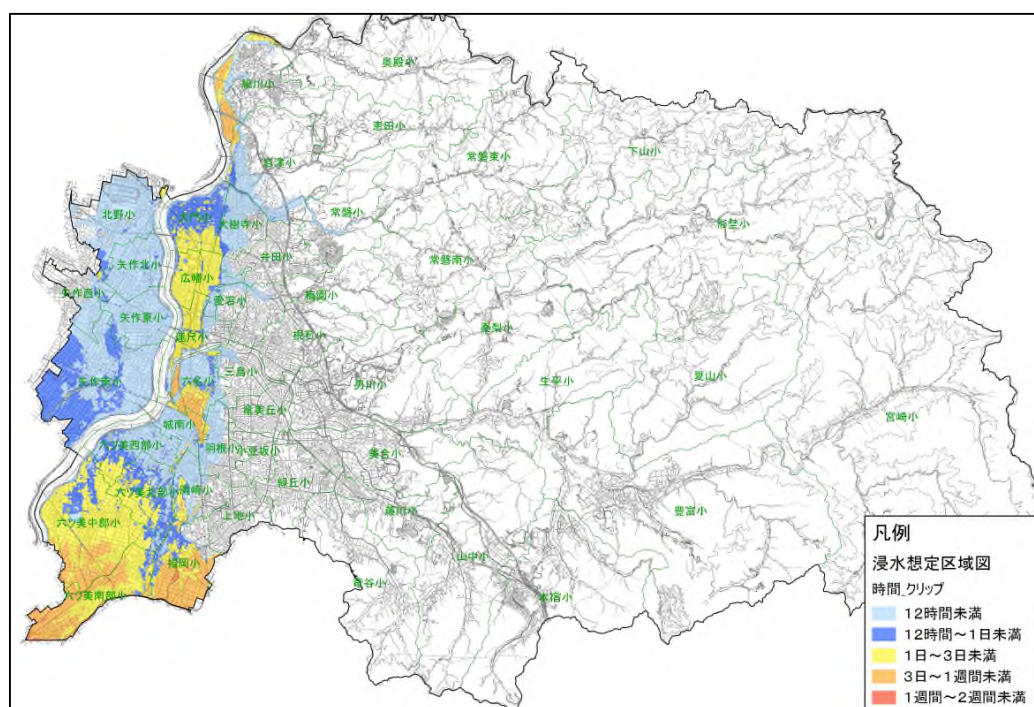
矢作川流域の48時間総雨量が683mmを超えた場合

《矢作川浸水想定区域図》

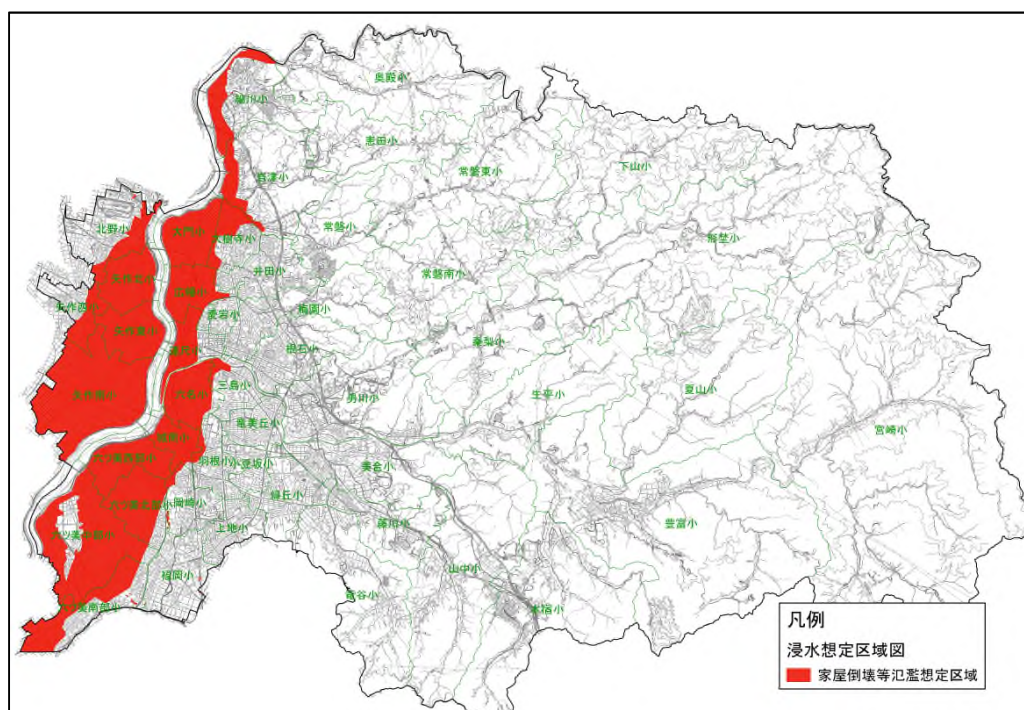
〈浸水深〉



〈浸水継続時間〉



〈流速による危険箇所〉

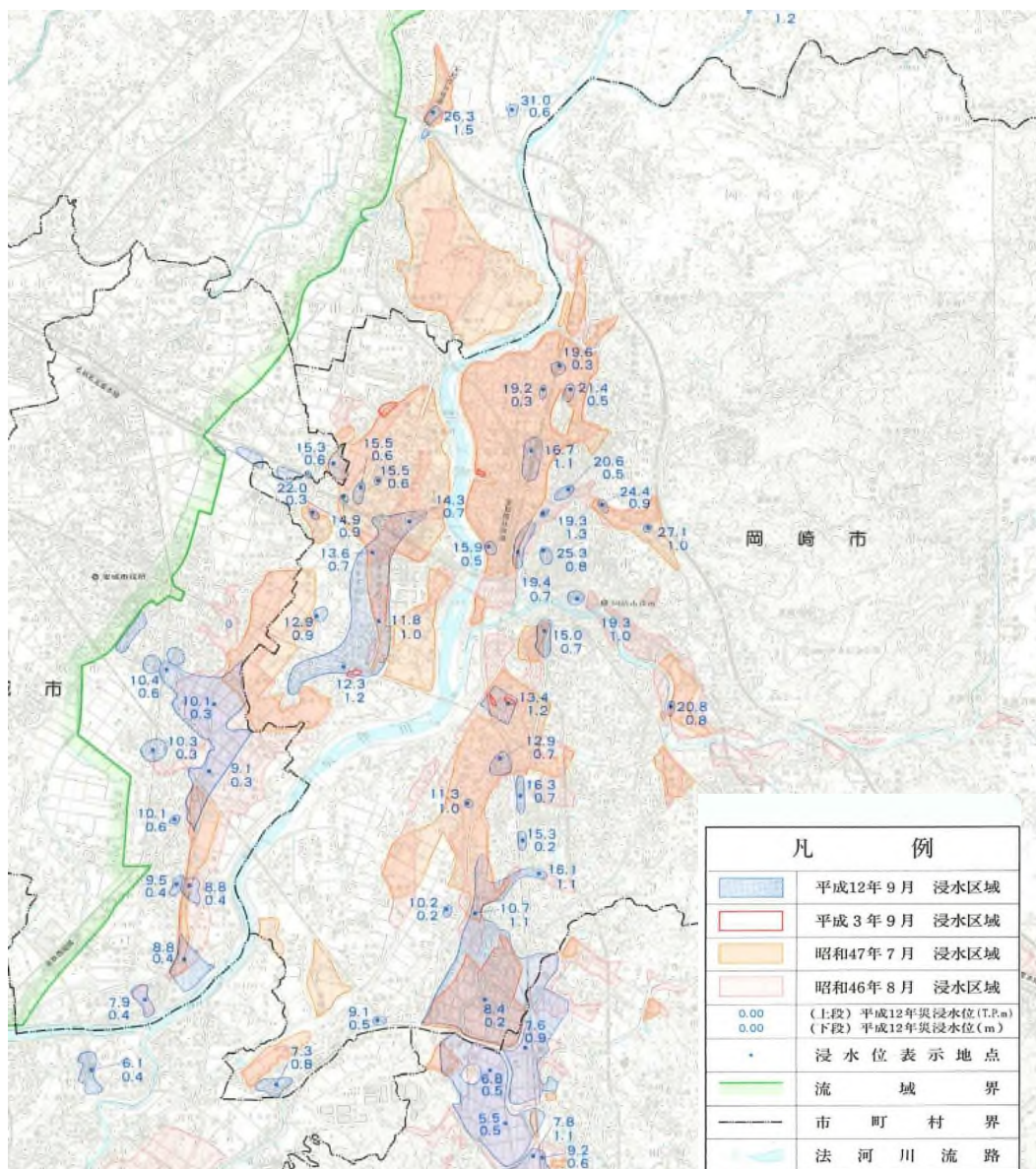


《検討した事項》

- ・当該浸水想定区域図は、右岸・左岸ともに、およそ 60mピッチで堤防を破堤させ、その浸水の広がり表現しているのであるが、実際にはこのような広範囲で浸水が起こることは考えられず、浸水想定区域内のうち、破堤点に近い場所が浸水することが想定される。
- ・避難対象とする地域を、重要水防箇所が含まれる地域のみとするなど、地域を特定することも考えられるが、浸水深や流速による影響が大きい矢作川においては、多数の住民に浸水想定区域外への避難を求めることになるため、特定した地域外が被災した場合に逃げ遅れが起きる可能性が高いため、地域は特定せず、浸水想定区域内の住民を、避難対象とすることとした。
- ・矢作川は、市内を縦断しているため、右岸か左岸のどちらから流出するかが分かれば、避難が必要となる地域をさらに特定することができるが、現時点では早期避難を検討する際に破堤地点を予測することは困難であるため、本計画においては、破堤点による避難対象地域の特定はしない。

《矢作川流域の浸水実績》

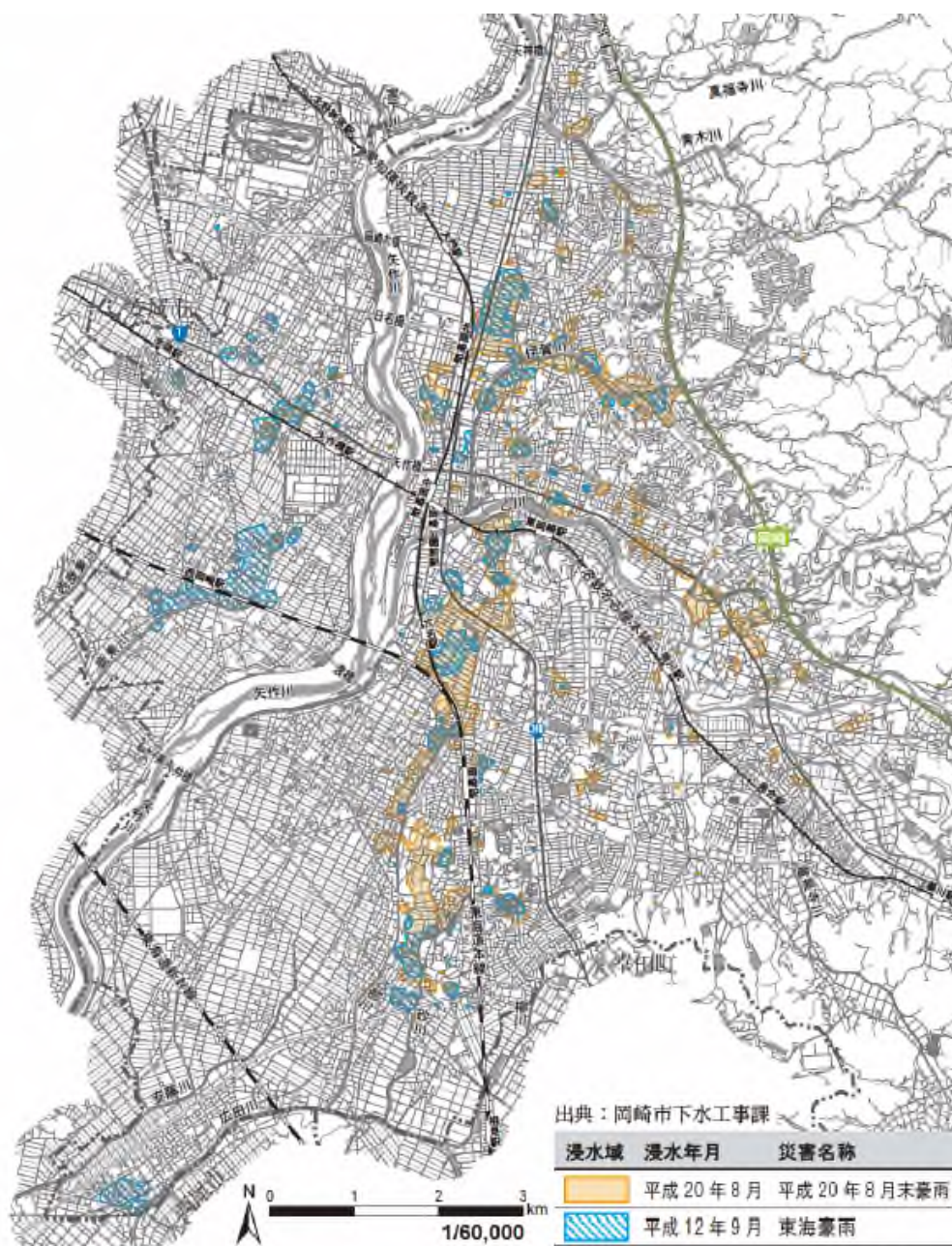
矢作川流域では、過去に何度か浸水被害が発生している。



(出典：愛知県矢作川流域浸水実績図)

※図には、内水氾濫や矢作川以外の河川氾濫による浸水も図示されています。

近年発生した大規模な被害は、東海豪雨と平成 20 年 8 月末豪雨である。



(出典：岡崎市水害対応ガイドブック)

7. 避難開始時期

従来であれば、矢作川の河川水位をトリガーとして、避難指示等を発令していたが、前記のように、避難対象となる住民が多いため、リードタイムが4時間などでは、逃げ遅れが発生することは明白である。

そのため、本計画では早期避難情報を発令することを定めるが、発令のタイミングを早くするほど、避難に関する時間を確保できる一方、例えば、無降雨・無風の中で避難情報を受けても、多くの住民が避難しない可能性があることや、気象情報の精度が低い中で避難する決断をしなければならないことなど、課題は散見されるが、浸水想定区域があまりにも広く、多数の住民が影響を受けることを考慮し、現時点で、より適切と考えられる早期の避難開始時期を設定する。

なお、避難開始時期については、避難シミュレーションによる避難時間を把握するとともに、防災訓練等を通じて、避難に要する時間の短縮を図るなど、今後改善する必要がある。

《具体的な避難開始時期》

リードタイム	避難対象者
24時間前（フェーズ1）	・災害時避難行動要支援者（全浸水想定区域） ・知人、親戚宅等への避難者（全浸水想定区域）
20時間前（フェーズ2）	・浸水想定区域が概ね10m以上の小学校区
16時間前（フェーズ3）	・浸水想定区域が概ね5m～10mの小学校区
12時間前（フェーズ4）	・浸水想定区域が概ね3m～5mの小学校区
8時間前（フェーズ5）	・浸水想定区域が概ね0.5m～3mの小学校区
2時間前（フェーズ6）	・全員避難完了 （既に避難が完了しておかなければ危険な旨の警告）

《時間軸で想定される情報や事象》

○24時間前

- ・気象庁による記者会見等で、災害発生の可能性が示唆される
- ・テレビ等で大型台風の接近等が注意喚起される
- ・公共交通機関の計画運休が検討される
- ・市災害対策本部の設置
- ・指定緊急避難場所、学区市民ホーム、車中泊避難所等の開設
- ・協定締結自治体に対して広域避難先の打診

○20時間前

- ・フェーズ1対象者避難完了
- ・公共交通機関の計画運休が公表される
- ・広域避難の検討

○16時間前

- ・フェーズ2対象者避難完了
- ・台風の進路予想の確度が高まり、風雨の影響が詳細に公表される

○12時間前

- ・フェーズ3対象者避難完了
- ・大雨、洪水警報が発表
- ・公共交通機関の計画運休等が開始
- ・小中学校の校舎等の一部を避難場所として開放
- ・広域避難の実施

○8時間前

- ・フェーズ4対象者避難完了
- ・一部地域で内水氾濫等が発生
- ・風が徐々に強くなり、移動時に注意が必要となる

○2時間前

- ・内水氾濫や中小河川の氾濫等が発生、拡大
- ・強風により、倒木や看板等の落下が発生
- ・域内の住民の避難完了

8. 早期避難情報

早期避難情報に、従来の「高齢者等避難」や「避難指示」を引用して発令すると、災害の逼迫状況や他の災害における同情報の発令タイミング等が混在してしまい、情報を受ける住民が困惑してしまうため、新たに早期避難に関する情報を設定する。ただし、矢作川早期避難情報（避難完了）発令時は、より効果的に情報発信する観点から、避難指示等と併せて発令することも考えられる。

《具体的な早期避難情報》

リードタイム	早期避難情報
24時間前	矢作川早期避難情報（第1次避難）発令
20時間前	矢作川早期避難情報続報（第2次避難）発令
16時間前	矢作川早期避難情報続報（第3次避難）発令
12時間前	矢作川早期避難情報続報（第4次避難）発令
8時間前	矢作川早期避難情報続報（第5次避難）発令
2時間前	矢作川早期避難情報続報（避難完了）発令

9. 避難対象者

避難対象者は、基本的に浸水想定区域内に居住する住民とするが、浸水想定区域が 50 c m未満の地域では、床上浸水の想定もなく、流速による被害の想定もないため、避難対象外とする。

《避難対象地域》

小学校区名	対象エリア（町内会）	対象人口
羽根小学校	戸崎一区、戸崎二区、戸崎三区、戸崎四区、戸崎五区、羽根北一区、羽根北二区、羽根北三区、羽根東一区、羽根東二区、羽根東三区、柱東本一区、柱東本三区、柱東町	6,944
岡崎小学校	羽根西新町、柱一丁目、柱二丁目、柱三丁目、柱四丁目、柱五丁目、柱六丁目、柱郷南、針崎郷、若松郷北、若松郷南、若松郷東、針崎東、柱川田	12,261
六名小学校	全域	14,449
三島小学校	明大寺本、上明大寺、西明大寺一区、西明大寺二区、西明大寺三区、宮前	2,002
連尺小学校	末広、城北、八帖北町、魚町、西魚、材木一丁目、材木二丁目、材木三丁目、八帖、中岡崎、田町、板屋、康生、康生通西、八帖南町	7,464
広幡小学校	全域	11,319
井田小学校	井田一区、井田七区、井田八区、井田九区、井田十区、石神	3,130

小学校区名	対象エリア（町内会）	対象人口
愛宕小学校	伊賀南一区、伊賀南二区、伊賀南三区、伊賀南四区、伊賀南五区、伊賀南六区、能見北、能見中、能見通一丁目	2,211
福岡小学校	全域	10,439
細川小学校	細川、仁木	4,106
岩津小学校	岩津、岩津天神、東蔵前北、東蔵前南、西蔵前	6,421
大樹寺小学校	全域	13,278
大門小学校	全域	12,663
矢作東小学校	全域	12,806
矢作北小学校	全域	13,530
矢作西小学校	全域	6,414
矢作南小学校	全域	15,006
六ツ美中部小学校	全域	5,378
六ツ美北部小学校	全域	12,105
六ツ美南部小学校	全域	11,361
城南小学校	全域	8,667
北野小学校	全域	10,520
六ツ美西部小学校	全域	11,840
計		214,314

《検討した事項》

- ・一般的に、浸水深が3m未満の場合、住家の2階に垂直避難することで、浸水から身を守ることができると言われているが、岡崎市内の浸水想定区域は、氾濫流による木造家屋等の被災範囲が広く、多くの木造家屋が被災する想定となっていることから、対象は50cm以上の浸水想定区域とした。
- ・中高層階に居住する住民は、滞留時間が長期的な場合を除き、垂直避難が可能であると考えられるが、浸水滞留時間の半分近くが、1日～3日以上継続するという想定であることや、都市部のように垂直避難可能な建物が多くないため、本項目には記載しないこととする。ただし、ハザードをきちんと理解していれば、安全な方法で安全な避難ができるため、避難の手法として、知人や親戚宅への避難とともに、住民への啓発を実施する。
- ・徒歩や自転車などの交通手段でも、直ぐに浸水想定区域外に避難できる場所に所在する住民は、早期避難せずとも浸水想定区域外に避難が可能のため、早期避難対象外となる可能性があったが、令和3年度版の計画では、避難シミュレーションは行わないため、どの程度、大勢の移動による渋滞等が発生するかが想定できないことから、今計画内では避難対象に含めるが、避難シミュレーションや訓練を通じて、検証を行う必要がある。

10. 避難のタイミング

避難対象となる住民は前記のとおり約20万人にのぼり、一斉に行動を取りはじめると、混乱や予期せぬ不慮の事態を招く可能性があるため、避難が必要な個人の属性や、浸水リスクに応じて段階的な避難を実施する。

なお、避難に要する時間は人それぞれだが、個人の力だけでは避難が難しい避難行動要支援者は、避難時間を多く要するため、避難開始時期を早めに設定するものとし、親戚や知人宅など、比較的容易に避難行動が可能な場所へ避難できる対象者についても、一斉避難における渋滞や混乱を避ける観点から、早期の避難開始時期を設定するものとする。

《避難対象者の整理》

避難対象者は、浸水深 50cm 以上の住民とし、次のとおり、洪水浸水想定区域図における浸水深や防災アンケート調査を基に、属性に応じて分類し、分類した対象人数を算出する。

《個人の属性による整理》

〈避難対象者〉

- ・ 浸水想定区域内の居住者 = 223, 677 人
- ・ 浸水深 50 cm 以上の浸水想定区域居住者（避難対象者） = 214, 314 人
- ・ 浸水想定区域内の避難行動要支援者 2, 827 人

【親戚や知人宅への想定避難者の算定】

- ・ ((浸水想定区域が 50 cm 以上の浸水想定区域居住者－災害時避難行動要支援者) * アンケートにて親戚・知人宅に避難すると答えた割合 = 親戚や知人宅への避難者

((214, 314 人－2, 827) * 0.19 = 40, 000 人)

11. 浸水深による避難対象者数の整理

- ・ 浸水深 10m 以上の浸水想定区域居住者

((浸水深 10m 以上の浸水想定区域居住者－災害時避難行動要支援者) * (1－アンケートにて親戚・知人宅に避難すると答えた割合)) = 浸水深 10m 以上の地域に居住する人数

((41, 366－706) * (1－0.19) = 33, 000 人)

- ・ 浸水深 5～10m の浸水想定区域居住者

((浸水深 5～10m 以上の浸水想定区域居住者－災害時避難行動要支援者) * (1－アンケートにて親戚・知人宅に避難すると答えた割合))

((65, 735－706) * (1－0.19) = 53, 000 人)

・浸水深3～5mの浸水想定区域居住者

（（浸水深3～5m以上の浸水想定区域居住者－災害時避難行動要支援者）＊（1－アンケートにて親戚・知人宅に避難すると答えた割合））

（（45,439－706）＊（1－0.19） 36,000人）

・浸水深0.5～3mの浸水想定区域居住者

（（浸水深0.5～3m以上の浸水想定区域居住者－災害時避難行動要支援者）＊（1－アンケートにて親戚・知人宅に避難すると答えた割合））

（（61,744－706）＊（1－0.19） 49,000人）

《段階的避難》

浸水想定区域内の避難対象者が、一斉に避難行動を開始することは、渋滞や混乱により、必要以上に避難時間を要することが想定されるため、段階的な避難を実施するものとする。

段階的避難については、乳幼児や高齢者・障がい者といった、避難に時間を要する可能性がある方や、知人や親戚宅といった、比較的容易に避難行動を実施できる方など、個人の属性を基にした整理と、中高層階や集合住宅、一般的な戸建住宅といった建物構造により、浸水深に応じて垂直避難が可能となる地域を分類し、それぞれ避難時間を分類することにより、段階的な避難を実施するものとする。

〈段階的避難とそれぞれの対象人数〉

属性	避難開始時期	分類の理由	対象学区	対象人口
・災害時避難行動要支援者 ・親戚等避難者	24 時間	・避難に時間を要する ・早期避難の影響が少ない	—	約 43,000 人
10m以上	20 時間	中高層階の建物であっても、浸水リスクが高い	細川小学校の一部、大門小学校、大樹寺小学校、広幡小学校	約 33,000 人
5m～10m	16 時間	アパートなどの共用住宅が冠水	井田小学校の一部、愛宕小学校の一部、連尺小学校の一部、六名小学校、城南小学校、矢作東小学校、矢作南小学校、三島小学校の一部	約 53,000 人
3m～5m	12 時間	一般的な個別住宅が浸水	岩津小学校の一部、六ツ美西部小学校、六ツ美南部小学校、六ツ美中部小学校、福岡小学校	約 36,000 人
0.5m～3m	8 時間	2 階建て以上なら垂直避難が可能（流速による危険が無い場合）	矢作北小学校、矢作西小学校、北野小学校、羽根小学校の一部、岡崎小学校の一部、六ツ美北部小学校	約 49,000 人

※ 避難方法が公共交通機関しか無い避難対象者において、上記避難開始時期が深夜に及ぶことが想定される場合は、避難開始時期に関わらず早期の避難を、避難対象者自らが判断するものとする。

タイムライン

前記のとおり、矢作川氾濫時の影響は広範囲に及ぶため、避難対象者が多く、従来のタイミングで避難に関する情報を発出しては、明らかに逃げ遅れが生じるため、矢作川に特化し、市としての時間軸をまとめたタイムラインを作成する。

ただし、住民が避難するタイミングは、障がいの程度や年齢、乳幼児の有無、避難先の種別といった、様々な条件により異なるため、マイ・タイムラインの作成を推進し、住民それぞれの特性に併せた避難を、住民自身が考え、我がこととして動いてもらうよう、啓発する必要がある。

12. 避難の手段

アンケート調査結果によると、避難手段は、自家用車と答えた割合が半数に及ぶなど、浸水想定区域外への避難が可能な住民は多い一方、自転車や徒歩で避難すると答えた割合も半数近くあり、安全な場所へ避難する距離が長い場合には、行政が車両などを手配する必要がある。

また、災害時避難行動要支援者については、地域における個別避難計画の策定を促す必要がある一方、早期避難実施時に、支援者が不在となる場合や、一般的な車両では移動が難しい場合において、福祉車両等を手配する必要がある。

さらに、早期避難実施時には、公共交通機関において計画的運休を実施している可能性もあるため、市は可能な限り大型バスなどの車両を手配し、避難手段の確保を行う必要がある。

《具体的な避難手段》

- ・自家用車を所有する住民においては、渋滞緩和の観点も含め、長距離移動手段が無い対象者と乗合せのうえ、避難を実施。
- ・自家用車等を保有しておらず、長距離避難が困難な避難対象者への移動手段確保のため、災害協定等に基づき観光バスを手配のうえ、安全な場所へ集団避難を実施。

- ・一般車両での避難が困難な、災害時避難行動要支援者等の移動手段を確保するため、福祉タクシーを手配のうえ、福祉避難所等へ避難を実施。
- ・自主防災組織、消防団、民生委員にて、要支援者等の避難を介助。

《手配可能な移動手段》

種別	手配先	保有台数
大型バス等	公益社団法人愛知県 バス協会	大型 1,191 台 中型 224 台 小型 483 台
福祉タクシー	日本福祉タクシー協会	福祉タクシー 約 40 台

※上記移動手段のうち、大型バス等については、浸水想定内の避難場所に集結させ、移動手段の無い避難対象者が乗車後、浸水想定区域外の避難場所や高速道路パーキングエリアへ移送するものとするが、避難場所が満員となるなど、場合によって他自治体等の広域避難を検討する。

13. 避難先

岡崎市内の指定緊急避難場所は、105箇所が指定されているところ、そのうち浸水想定区域内や土砂災害警戒区域等に所在する避難場所は、39箇所あるため、避難者を受け入れるための施設は明らかに不足する。

まずは指定緊急避難場所を開設することを基本とするが、市内の安全な場所に立地している、避難可能な施設等を最大限活用するものとし、公共施設のみならず、商業施設や工場などを利用するために、災害協定の締結を進めることとする。ただし、避難が必要な住民は約20万人以上と、多数の住民が浸水想定区域外への避難を必要とするため、相互応援協定を締結する自治体への広域避難も調整することとする。

また、平成28年熊本地震や、平成30年7月豪雨では、自主的な車中泊避難者が多数発生するなど、車中泊避難が一般に浸透してきているため、本計画では、車中泊避難も避難先とするが、車中泊避難は、適切な知識を持って実施

しなければ、エコノミークラス症候群を発症することや、浸水が想定される場所に誤って避難する危険性などもあるため、車中泊避難が可能な場所や注意点を周知する必要がある。

福祉避難所については、優先開設先をあらかじめ定めることとし、受入を要請する避難者の準備が整った段階で開設を依頼する。

また、大型観光バスなどによる避難については、場合によって高速道路のパーキングエリア等も安全な避難先となるため、中日本高速道路株式会社と協議のうえ、大型観光バスでの車中泊場所とすることも検討する。

その他にも、愛知県が締結している協定先（全国知事会、愛知県市長会等）の自治体も避難先候補として整理し、避難先が不足する際は、愛知県を通じて避難先を確保するものとする。

《避難先の候補地》

開設避難施設の種別
指定緊急避難場所
学区市民ホーム
子どもの家
公民館
ホテル・旅館
寺院
学校校舎

車中泊場所の種別
指定緊急避難場所以外の公共施設
指定緊急避難場所の屋外運動場、駐車場
商業施設・工場
高速道路サービスエリア

《開設する指定緊急避難場所》

指定緊急避難場所	受入可能人数	指定緊急避難場所	受入可能人数
梅園小学校	442	甲山中学校	459
根石小学校	442	葵中学校	459
男川小学校	367	河合中学校	273
緑丘小学校	367	常磐中学校	476
三島小学校	367	新香山中学校	526
竜美丘小学校	367	竜南中学校	526
井田小学校	507	翔南中学校	490
竜谷小学校	367	愛知教育大学附属岡崎中学校	740
藤川小学校	367	岡崎東高校	580
山中小学校	225	岡崎工業高校	580
常磐小学校	315	岡崎北高校	510
恵田小学校	234	中央総合公園	7,660
細川小学校	367	岡崎高校	620
岩津小学校	325	岩津高校	500
大樹寺小学校	455	井田体育館	200
矢作西小学校	367	宮崎保育園	50
上地小学校	325	岡崎市民会館	170
小豆坂小学校	325	大平市民センター	80
形埜小学校	500	藤川学区市民ホーム	50
愛知教育大学附属岡崎小学校	500		

39施設：22,480人 受入可能

《広域避難先の候補となる自治体》

自治体名	協定種別	代表地点 (市役所) までの距離	自治体名	協定種別	代表地点 (市役所) までの距離
富山市	中核市	290 km	尼崎市	中核市	205 km
長野市	中核市	293 km	伊丹市	競艇事業市	202 km
岐阜市	中核市	91 km	蒲郡市	競艇事業市	20 km
豊橋市	中核市	37 km	津市	競艇事業市	115 km
高槻市	中核市	183 km	茅ヶ崎市	ゆかりの町	266 km
枚方市	中核市	179 km	佐久市	ゆかりの町	263 km
東大阪市	中核市	192 km	関ヶ原町	ゆかりの町	97 km
姫路市	中核市	284 km	刈谷市	西三河	20 km
奈良市	中核市	180 km	安城市	西三河、 個別協定	10 km
和歌山市	中核市	262 km	知立市	西三河	13 km
大津市	中核市	153 km	みよし市	西三河	27 km
豊中市	中核市	200 km	幸田町	西三河	13 km
西宮市	中核市	212 km			

協定締結済の68自治体のうち矢作川氾濫時の影響が少なく、岡崎市から300km圏内の自治体を候補とした

※ 中核市：中核市災害相互応援協定 ※ 西三河：西三河災害時相互応援協定

※ 競艇事業市：競艇事業関連自治体で調印した大規模災害時の相互応援協定

※ ゆかりの町：家康公ゆかりの町で調印した災害時相互応援に関する協定

前記の協定締結自治体のうち、岡崎市に隣接する安城市と幸田町については、矢作川氾濫時の影響が他自治体に比べて少ないため、本避難計画の受入について、既に協議を行っており、優先的に受け入れ要請を打診する。

また、矢作川が及ぼす影響は岡崎市のみならず、広域に及ぶため、流域での避難方法の検討などを、矢作川水防災協議会等で協議する必要がある。

《車中泊避難所の候補地種別》

種別	利用候補地
指定緊急避難場所以外の公共施設	公園、屋外運動場、駐車場等
指定緊急避難場所の屋外運動場、 駐車場	駐車場、屋外運動場等
商業施設・工場	立体駐車場、運動場、駐車場等

※車中泊避難所の候補地については、大型商業店舗等を含めて、協議を進めており、最新の車中泊避難所については、防災課ホームページ（岡崎市防災ポータル）に、最新情報を掲載するものとする。

《検討した事項》

- ・広域避難先の協定締結自治体を、避難先候補地としてあらかじめ特定しておくことも考えられたが、台風の進路等によっては、避難先候補地となる場所が被災する可能性もあるため、避難先は早期避難開始を判断する状況となった際に、特定するものとする。
- ・24時間前に発令する早期避難情報の発表時においては、指定緊急避難場所等の公共施設が開館しており、早期避難者の受入に支障を及ぼす可能性が高いため、早期避難開始時における、公共施設の計画的な休館について定める必要がある。

14.市の体制

早期に多数の住民の移動を必要とする本計画では、情報収集や発信、避難所開設など、多くの業務が発生するため、全職員体制にて災害対応を実施することとするが、長期間に及ぶ災害対策本部の設置が見込まれるため、2交代制度が可能な参集体制を取るものとする。

《非常配備体制》

計画発動時には、情報収集や早期警戒情報の配信、避難所開設等の多くの業務が発生するため、災害対策本部を設置するものとし、非常配備体制は以下のとおりとする。

状 況	非常配備体制
計画発動時	第1非常配備体制
避難行動開始	第2非常配備体制

状況によっては、上記体制のほか、災害対策本部活動要領などで定められた非常配備体制と相違が発生する可能性があるが、その際は、どちらか規模の大きい体制とすることを原則とする。

その後は、湛水時間が長期間に及ぶことや、気象警報が早期に発表されることなどを鑑みて、必要に応じ、体制の拡大・縮小を行うものとする。

《指定緊急避難場所等の開設順位》

早期避難を決定した際は、速やかに安全な地域に立地している指定緊急避難場所を開設するものとし、受入可能な人員を超えることが明らかとなった段階で、分散避難施設の開設や小中学校等の校舎の利用を調整するものとする。

開設優先度	開設避難場所の種別	開設可能数
最優先	指定緊急避難場所	39 箇所
優先	学区市民ホーム	28 箇所
優先	子どもの家	26 箇所
優先	公民館	140 箇所
劣後	ホテル・旅館	10 箇所
劣後	寺院	40 箇所
最劣後	学校校舎	39 箇所

《車中泊避難場所の活用順位》

活用優先度	車中泊場所の種別
最優先	指定緊急避難場所以外の公共施設
優先	商業施設・工場
劣後	高速道路サービスエリア
最劣後	指定緊急避難場所の屋外運動場、駐車場

《防災関係機関との連携》

本計画発動時は、職員のみならず、消防団や防災防犯協会といった、防災関係機関と協働で対応するものとする。ただし、本計画は早期避難に関する計画を定めるものであり、実災害の対応等については、別途マニュアル等で整理するものとする。

〈消防団が実施する対応〉

- ・ 早期避難情報の広報
- ・ 避難誘導
- ・ 災害時避難行動要支援者の避難の介助
- ・ 上記のほか、可能な範囲で浸水想定区域外に所在する公民館の避難所や、車中泊避難所等の開放、運営の補助

〈防災防犯協会が実施する対応〉

- ・ 早期避難情報の広報
- ・ 避難誘導
- ・ 災害時避難行動要支援者の避難の介助
- ・ 浸水想定区域外に所在する公民館の避難所や、車中泊避難所等の開放、運営
- ・ 町内会等における組織的な避難

〈婦人自主防災クラブが実施する対応〉

- ・ 通常時に行う訓練等において、非常時の避難に対する啓蒙を行う。

《検討した事項》

・ 本計画は災害発生の 24 時間以上前から発動することが想定され、災害発生後も含めて長期的に応急体制を継続する可能性があり、職員の勤務時間や公共施設の休館等を長期的に対応するため、水害時における業務継続計画（BCP）を策定する必要がある。

15.計画の見直し

早期避難を実施するためには、早い段階で精度の高い気象情報が発出される必要があるが、現状、24時間程度前に発出され、尚且つ精度の高い気象情報としては、台風気象情報に限定されるといってもよい。

しかしながら、近年、河川氾濫を起こす事象としては、線状降水帯によるものも多く、現状の気象予測技術では、線状降水帯の発生を早期に予想することは困難とされており、将来的に、気象予測技術が向上された際には、都度計画を見直す必要がある。

また、令和3年度の計画においては、住民の避難シミュレートを実施しておらず、場合によっては、早期避難のタイミングをさらに早める必要があることや、避難訓練等により、住民一人ひとりの避難に要する時間が短縮されれば、避難開始のタイミングを遅らせることも可能である。

冒頭部分にて、計画の位置づけでも記載したとおり、本計画は幾つかの課題を有しており、計画をより実効性のある精度の高いものとするため、当面の間、年1回程度の計画修正を行うものとする。

16.その他の河川氾濫等との整理

市内には、矢作川以外にも乙川や広田川・伊賀川や鹿乗川といった、広範囲に浸水の影響を及ぼす河川が流れており、矢作川が氾濫する前に、それらの河川が氾濫していることや、内水氾濫が発生している可能性が高い。

本計画では、避難開始時期を、24時間前に設定しているが、段階的避難により、最短で8時間前の避難行動を開始する対象者もいるため、本計画による避難は、可能な限り前倒しで判断する必要があることを、認識しておく必要がある。

17. 普及、啓発

本計画の主体は、浸水想定区域内に居住する住民であり、対象となる住民が計画や個々のリスクを適切に理解したうえで、避難の要否や適切な避難場所へ避難することにより、初めて計画が成立するものである。

浸水深や流速といった、ハザードリスクの認識を高めることはもとより、避難方法や避難のタイミングは、家族構成や個々の健康状態等により違いがあることや、地域の避難行動要支援者といった、避難の介助が必要な人を地域で守る意識を持ってもらうなど、自助・共助の意識を高めるための普及啓発を進める必要がある。

《普及、啓発する内容》

・ 矢作川氾濫時に影響を受ける地域

(特に、矢作川に接していない町内会等は、アンケート調査結果において、浸水想定等の認識が低かったため、重点的に啓発する)

・ 氾濫流の影響を受ける地域

・ 影響を受ける人口が約20万人に及び、早期に計画的な避難が必要な事項

・ 一斉避難による渋滞や混乱等が発生することと、段階的避難の地域

・ 安全な避難先（避難場所、車中泊避難場所等）

・ 浸水想定区域外の親戚や知人宅も避難場所となり得ること

・ マイ・タイムラインの作成に関すること

・ 地区防災計画の作成に関すること

18. 検討会

本計画は、前例がほとんど無い早期避難に関する事項を定めるため、有識者からの意見を取り入れることや、多くの関係機関に協力を得る必要があることから、検討会を設置するものとした。

ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、検討委員は一堂に会さず、個別ヒアリングや Web 会議等にて実施した。

《検討会委員》

（有識者）

名古屋工業大学	富永 晃宏 名誉教授
---------	------------

山梨大学	秦 康範 准教授
------	----------

名古屋大学	荒木 裕子 准教授
-------	-----------

（地域）

総代会連絡協議会	長坂 秀志（六名学区）
----------	-------------

神尾 明幸（大門学区）

橋本 稔（矢作西学区）

二村 政彦（六ツ美中部学区）

消防団連合会	会津 章一 会長
--------	----------

婦人自主防災クラブ	小野田 稚桂子 会長
-----------	------------

災害ボランティア・おかざき	木下 尚美 副会長
---------------	-----------

（関係機関）

岡崎市障がい者福祉団体連合会	加賀 時男 会長
----------------	----------

愛知県バス協会	成瀬 重男 事務局長
---------	------------

《検討会における主な意見》

- ・避難の段階がどういうイメージなのかわかりにくい。大型台風や、線状降水帯などといった避難に関する情報を整理したほうがよい。
- ・24時間前に本当に避難できるかを考えると難しいと言わざるを得ない。
- ・大きな計画が、頻度の高い小規模災害に代わるかという点、そうではなく、危機管理においては、大は小を兼ねない。
- ・現状の被害想定では、トリガーが難しい。車で本当に避難ができるのか。実際、自家用車で移動したときに、何が起きるのかを検討したほうが良い。
- ・空振りが発生することを前提とした計画だと思うが、それをどうやって住民に許容してもらうことができるかを、計画に入れたほうが良い。
- ・トリガーは、みんなが納得する必要がある。避難のコストが低い人（意識が高い人たち）もいる。アンケートの結果を踏まえながら、落としどころを見つけてほしい。
- ・浸水域が広いと、浸水想定区域外の地域に人が押し寄せる可能性がある。そのような地域には、避難できる場所の整備を進めるか、難しいようなら企業等に場所提供の協力を求めて欲しい。
- ・重度の障がいを持った方など、避難することのデメリットも考えたほうがよい。
- ・想定最大規模（L2）でよいのか。
- ・リスクに応じて、避難の順番を決めるなど、プライオリティを付ける必要がある。
- ・有事の話と、会社や工場の営業などを、同じ土俵で話すべきものではないと思う。

・みんなで、「さあ逃げよう」という気持ちが大事。空振りも当然あることを許容する社会を形成することが必要。

・自宅から近距離にある避難所に避難することが一般的だが、本計画においては、避難者を分散するためにも遠距離の避難所へ誘導することも必要。

・私のように、台風接近時でも勤務する人がいることを、認識だけはしておいてほしい。

・防災意識のレベルは、人によってまちまち。計画が、誰をターゲットとしているかを明確にすることも必要。

・対策を全くしておらず、有事の際に避難しない人たちも、計画に含めて考えると、対策している人の足を引っ張ることになるのでは。

・行政として、網羅的に施策を進めることが求められていることは、重々理解しているが、その考え自体が不公平を生んでいるのではないか。

・計画は、皆が避難することで、初めて役に立つと思うが、皆が避難してくれるかがとても心配。

・婦人自主防災クラブとしては、できることは大きくないが、地域で他の人を巻き込みながら避難することや、声掛けをすることは、地区によっては可能。

・活動のスタートは小さくとも、輪を少しずつ広げていくことで、大きな輪を作り、今回の計画に関わらず、みんなで災害対応ができるとよい。

・消防団として、人命を救うことはできる限り尽力するが、避難しない人たちに、どのように対応するのが不安。

・地域総合防災訓練の場を使って、地域による災害特性を学んでもらったほうが良い。例えば、土砂災害が懸念される地域には土砂災害のパネルを掲載するなど。

19. アンケート結果

本計画の策定にあたり、以下のとおりアンケート調査を実施した。

【アンケート実施期間】

- ・ 令和3年2月1日(月)～2月19日(金)

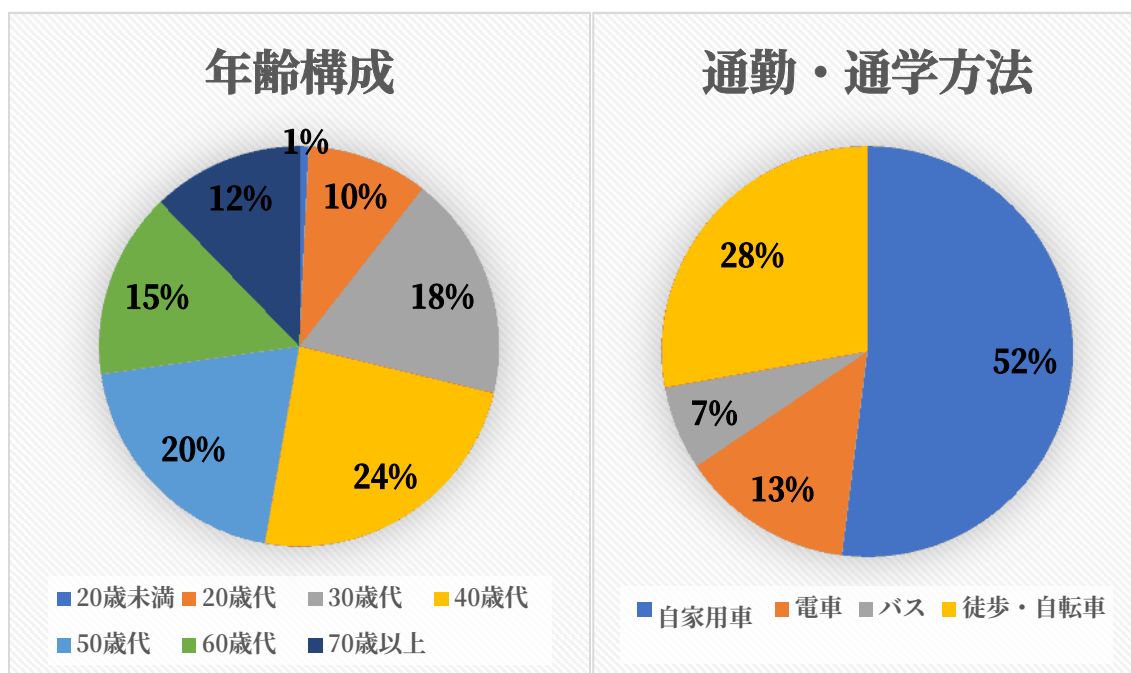
【アンケート方法】

- ・ 1, 000世帯への無作為抽出による郵送（矢作川浸水想定区域内）
- ・ Google フォームを利用した、Web アンケート

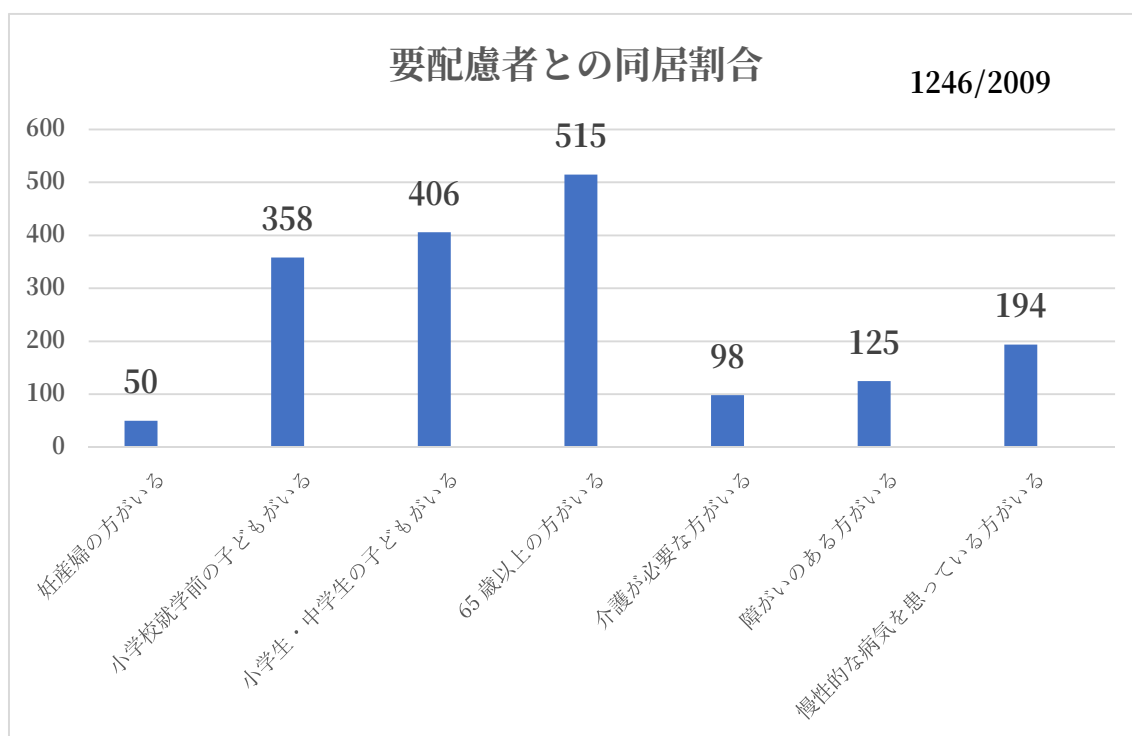
【アンケート結果】

- ・ 郵送： 496件
- ・ Web： 1, 514件 計2, 009件

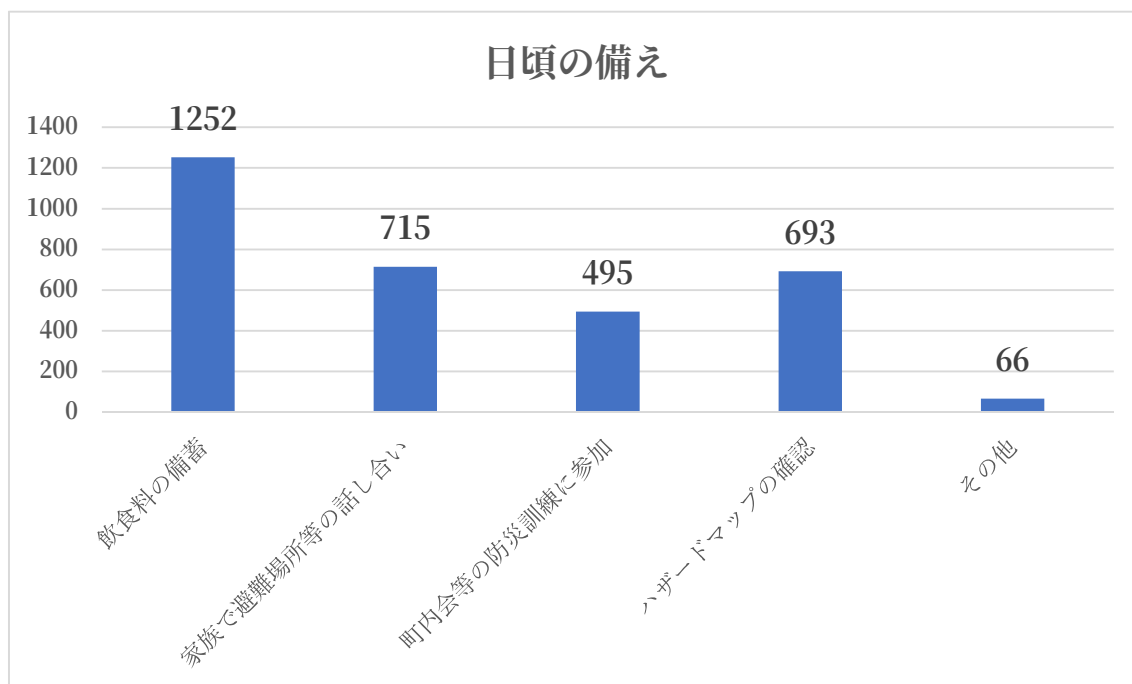
【個人の属性に関する回答結果】



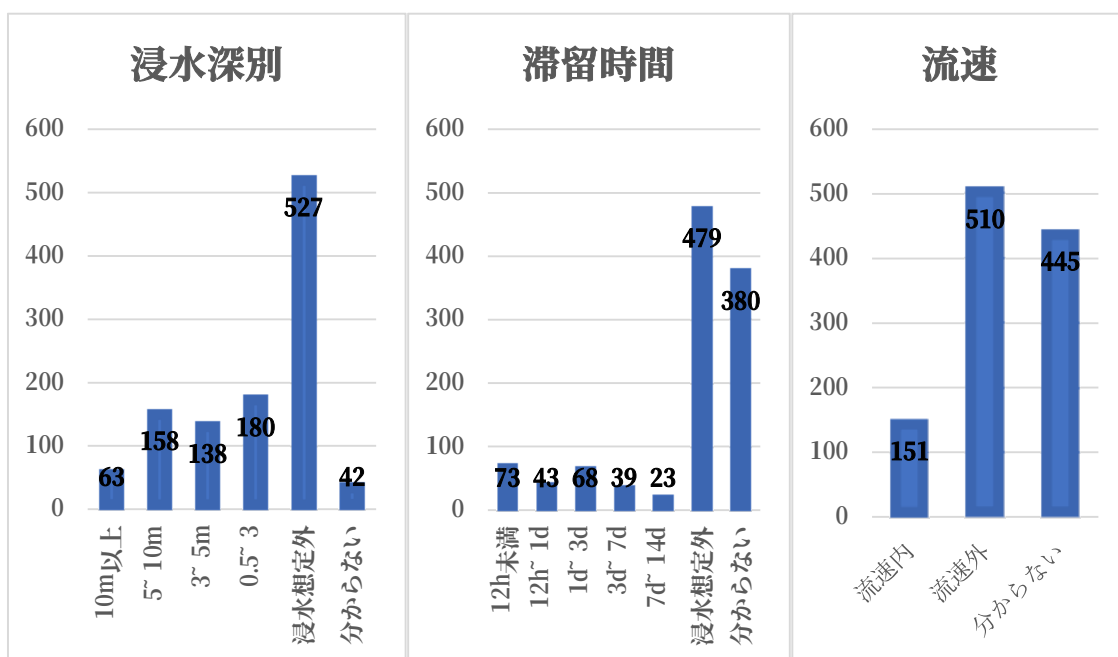
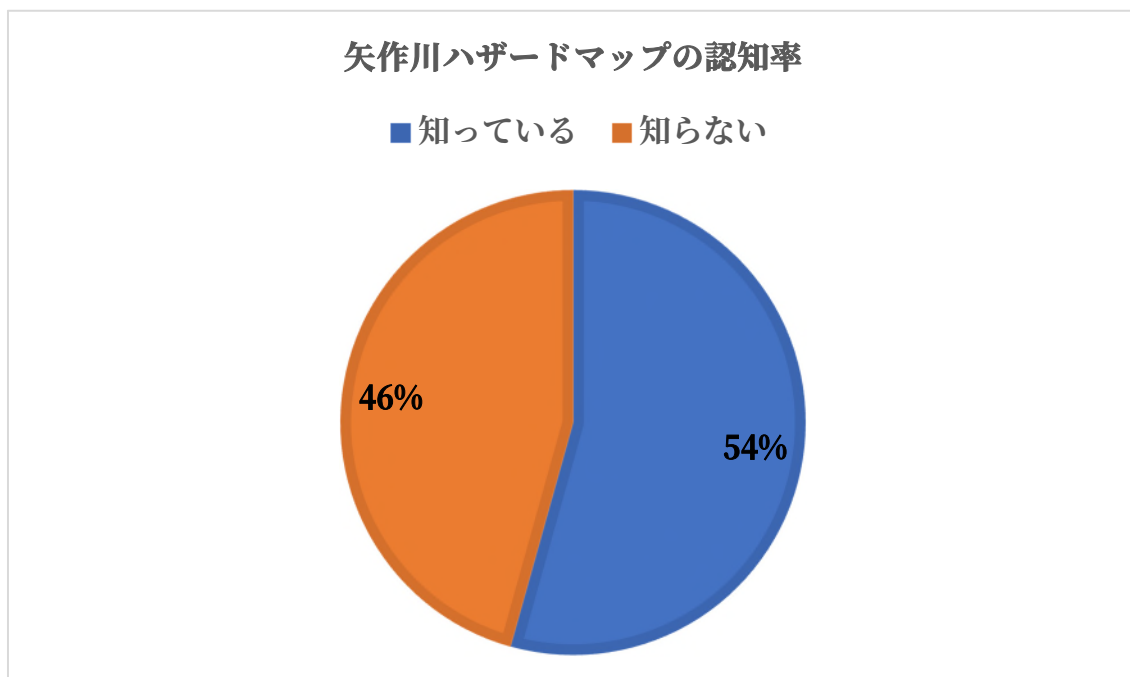
(要配慮者との同居割合)



(日頃の備えの実施状況)



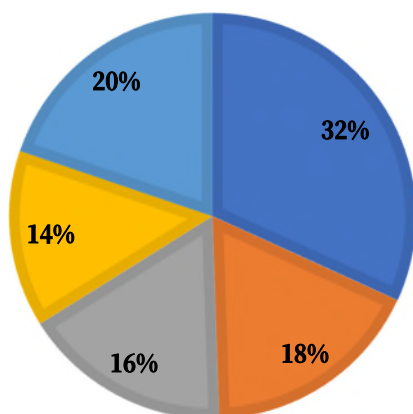
【矢作川ハザードマップの認知率】



【矢作川の氾濫による影響】

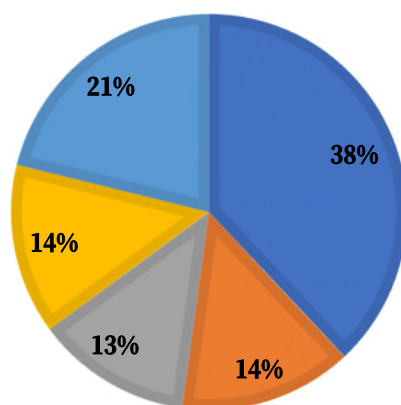
①生命・人体への影響

■ 1思う ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5思わない



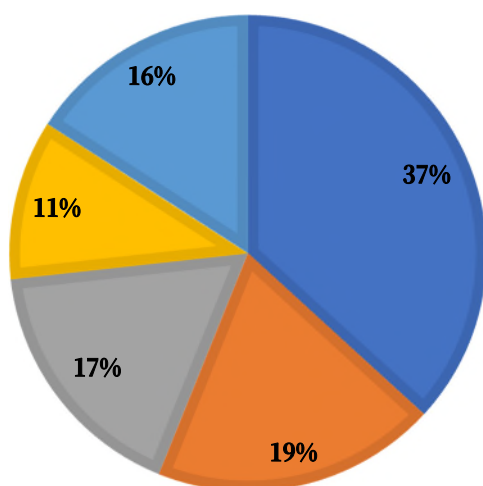
②住宅・財産の被害

■ 1思う ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5思わない



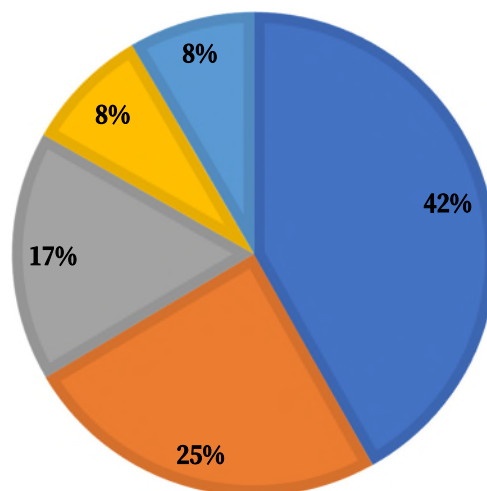
③会社や学校の浸水被害

■ 1思う ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5思わない



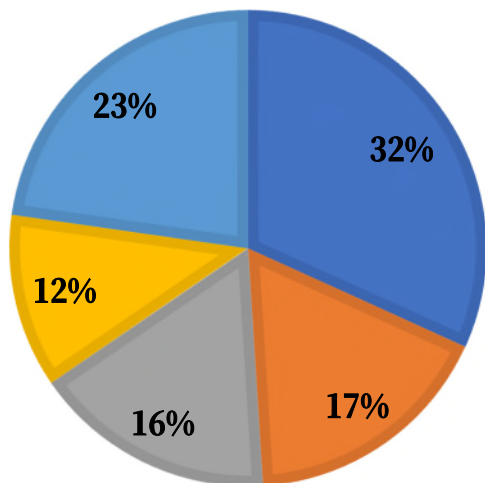
④長期的な浸水継続による生活環境

■ 1思う ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5思わない



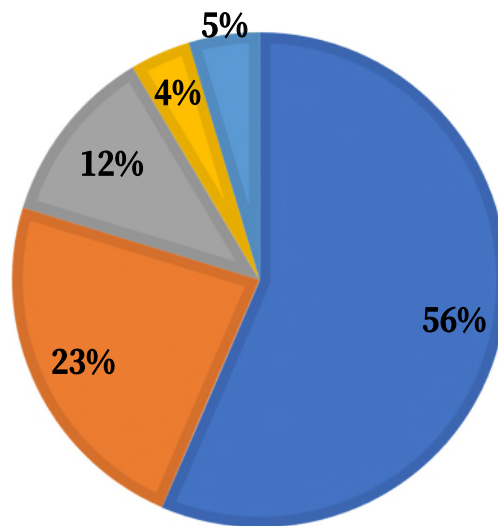
⑤最寄りの避難場所の浸水

■1思う ■2 ■3 ■4 ■5思わない



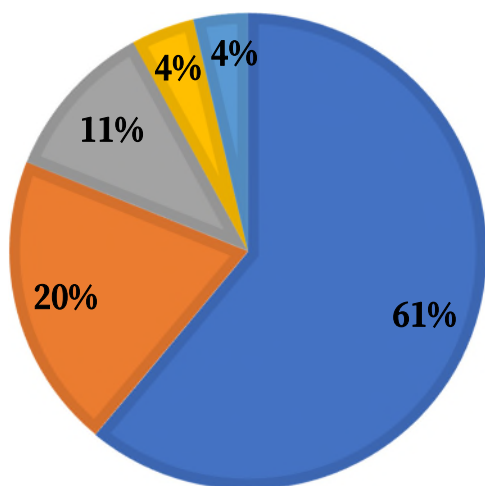
⑥道路や路線等の被害による移動障害

■1思う ■2 ■3 ■4 ■5思わない

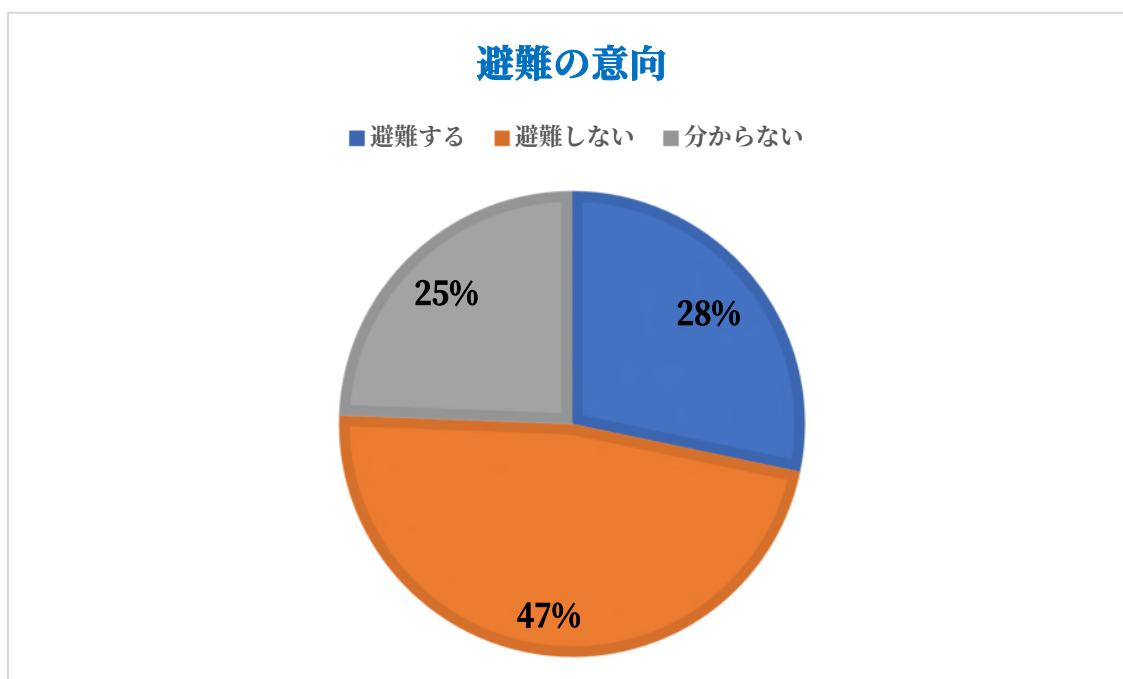


⑦大勢が避難することによる渋滞

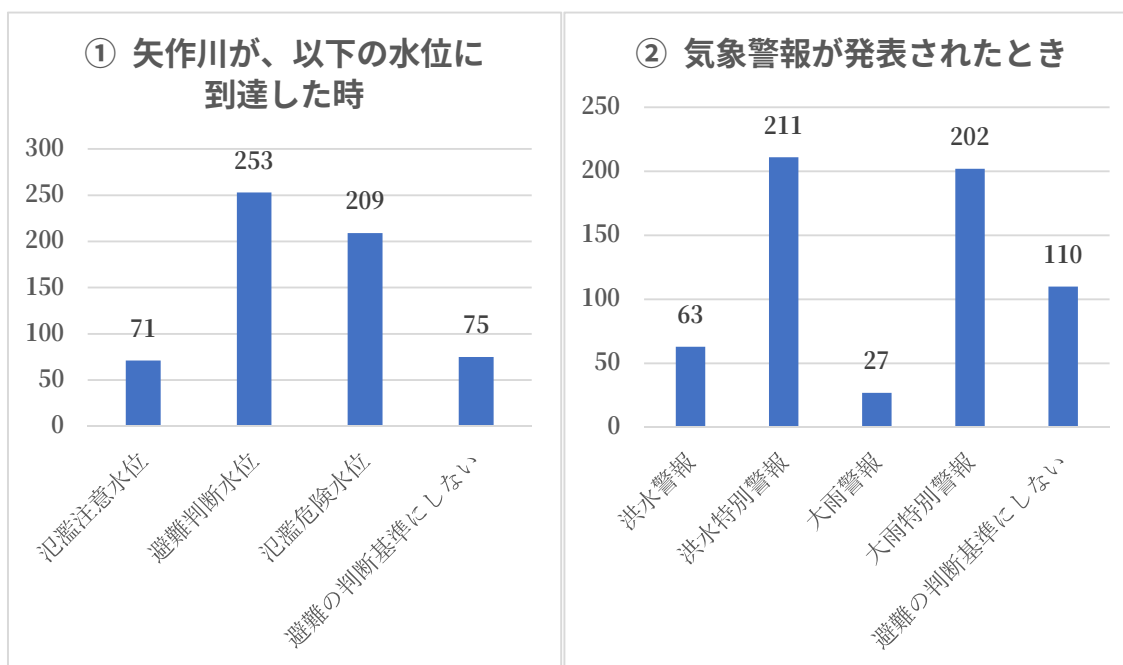
■1思う ■2 ■3 ■4 ■5思わない



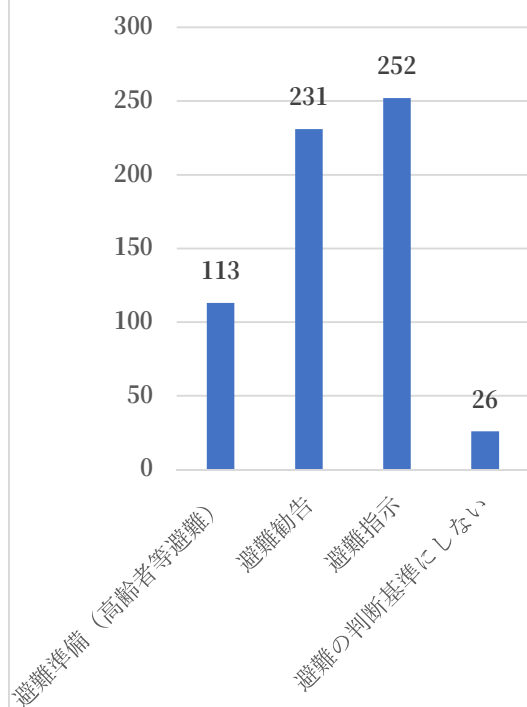
【矢作川に関する避難の意向】



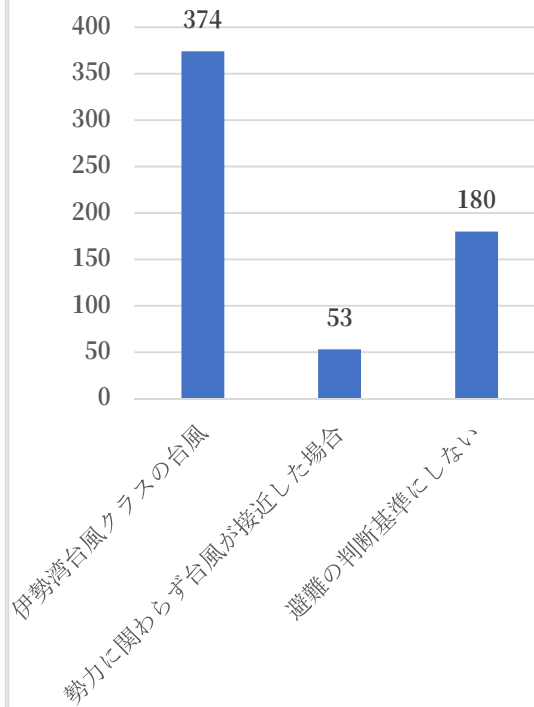
【避難の基準とする情報等】



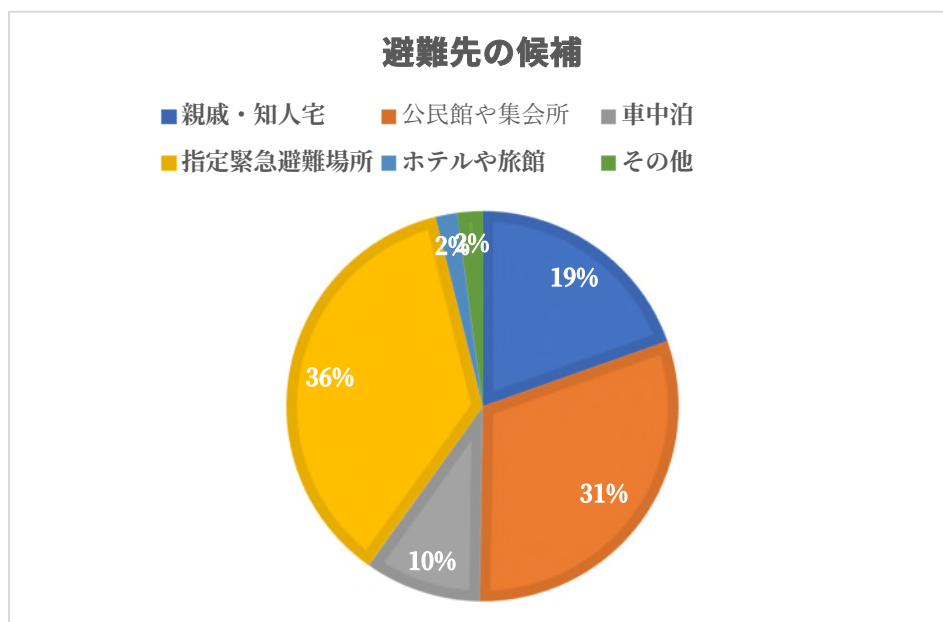
③ 市から避難に関する情報が発令されたとき



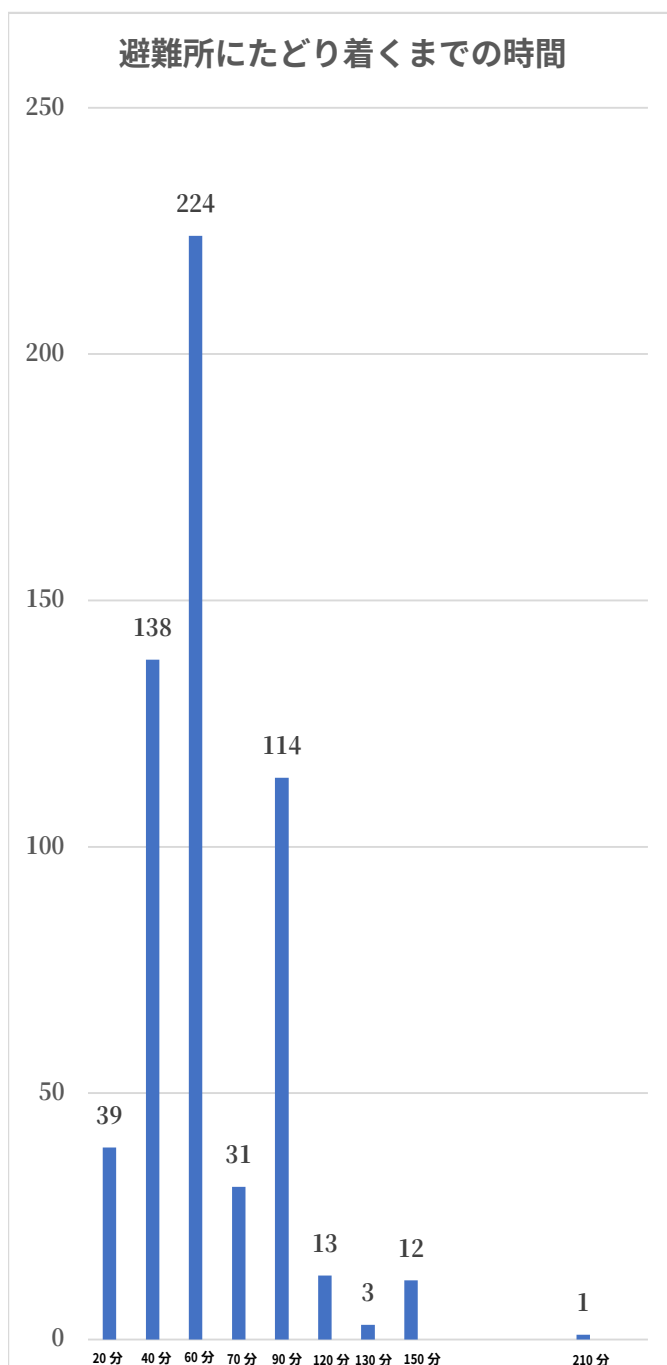
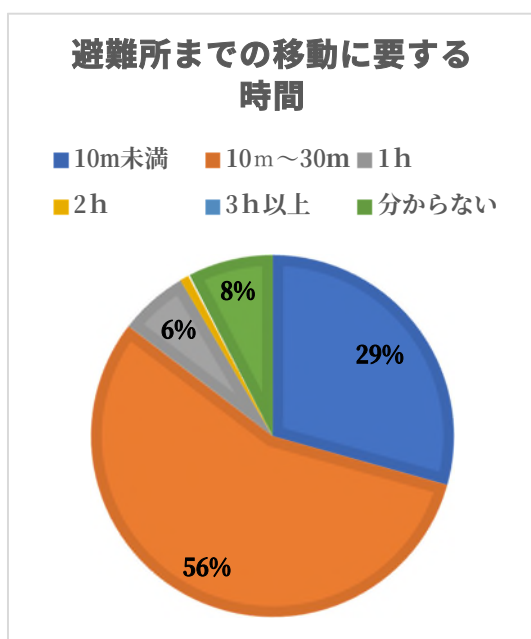
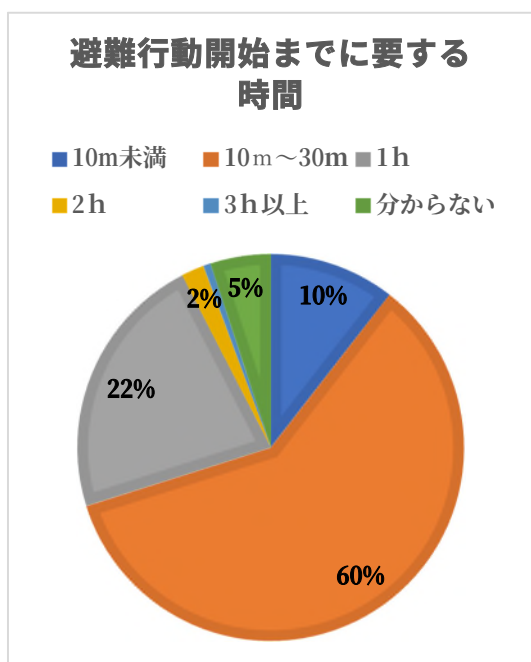
④ 勢力の強い台風が接近しているとき



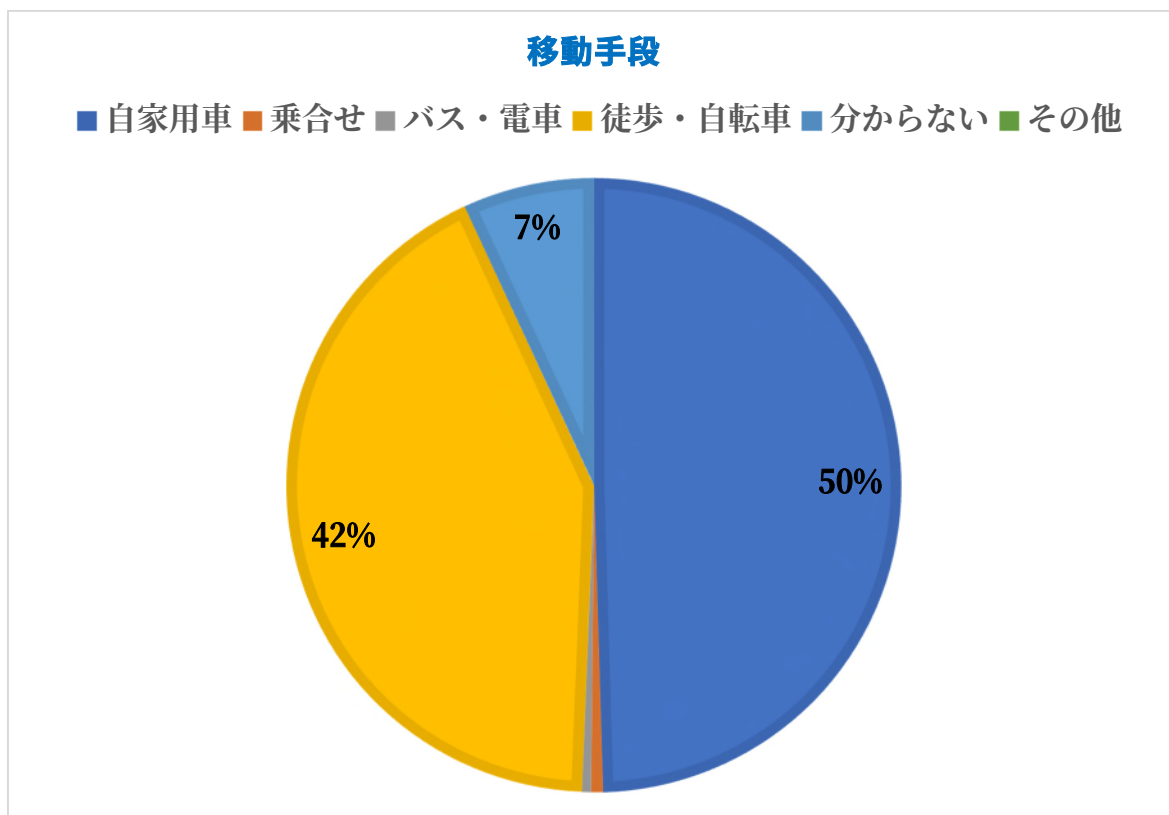
【避難先の候補】



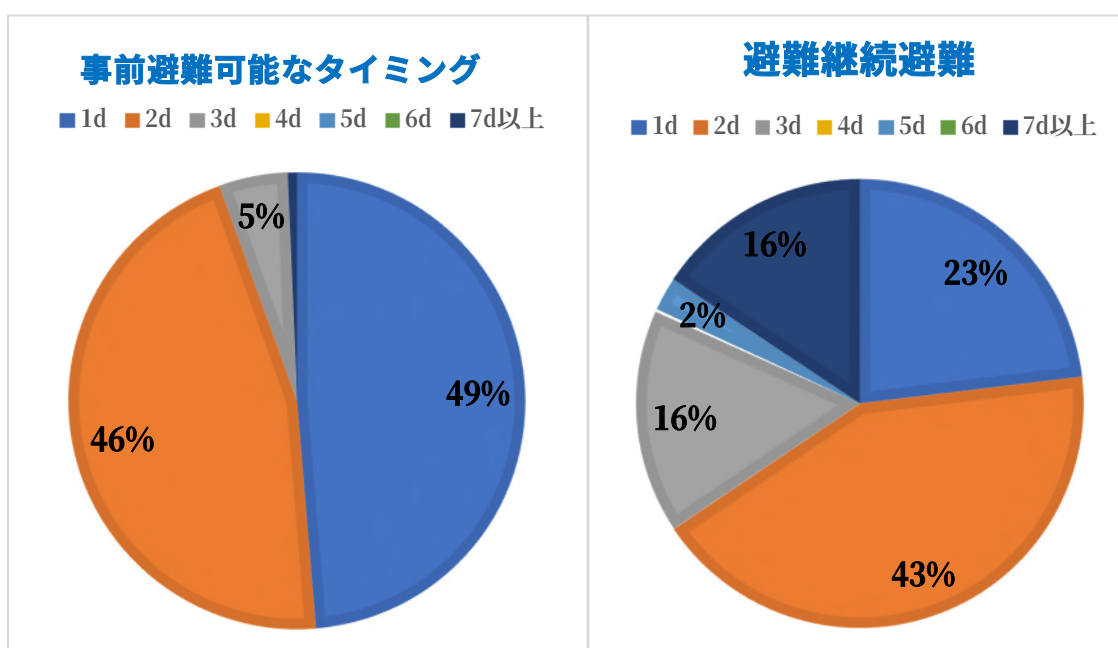
【避難に要する時間】



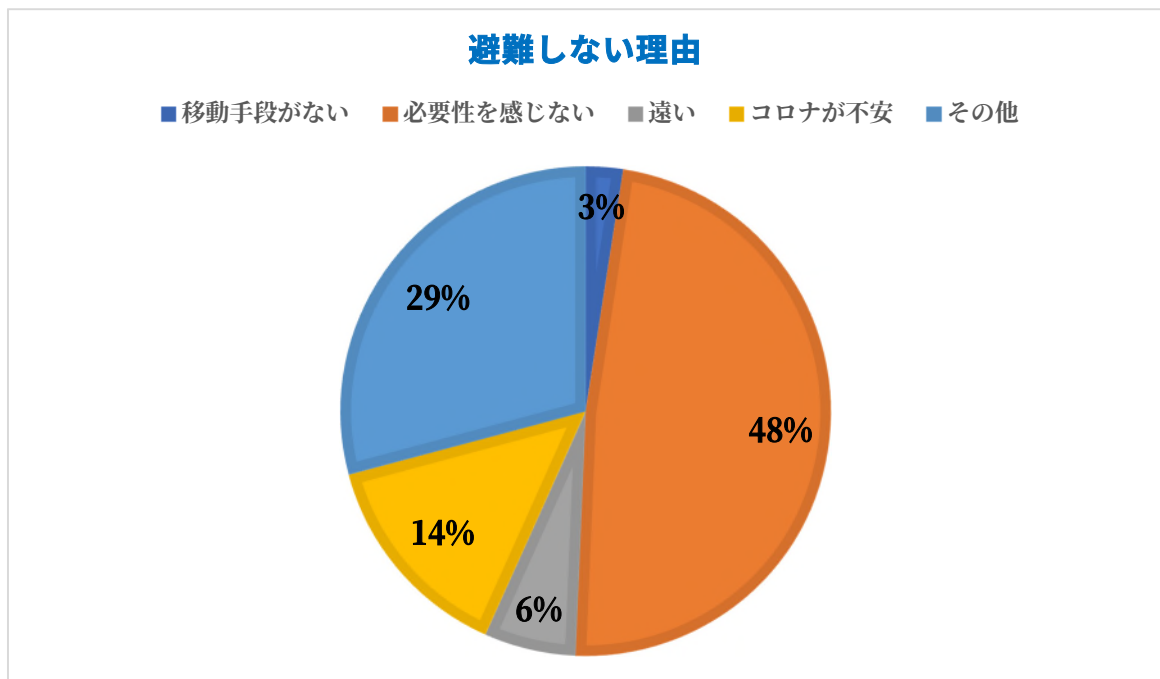
【避難する際の移動手段】



【事前避難可能な時間等】



【避難しない理由】



【情報の入手方法】

